

## 12月1日 Workshop2 Group2

二つのグループでのワークショップが行われました。このワークショップでは、リサーチや現地調査結果の資料を読み、グループ内で議論、整理を行い、最後に全体での意見交換が行われました。政策策定に有益な情報や政策と関連する問題の提示などが求められました。資料を読む際に、貧困地域で教育へのアクセシビリティを改善する要因はなにか、それらが需要、供給のどちらに関連するものかに注意することが話され、知識を持つことの強み、知識を持つ人とともに働くメリットを考えることが注意されました。

全体での共有において、グループ1は調査結果に基づいて、主にコロナ禍における学びの継続、リモート教育に関する内容が話されました。PCの普及率の低い地域でもラジオやテレビ、携帯電話によるアクセシビリティの改善を図る教育政策が共有され、通信媒体による教育効果の話もありました。パキスタンでは教育のためのテレビ局が開設されたそうですが、一部の地域はテレビも普及していないため、ラジオによるリモート教育の必要性があるそうです。しかし、ラジオは視覚的な情報にけるため学習者の意欲・興味を十分に引き出すことができず、教育媒体として不十分であることも話されました。これらを踏まえて、調査結果は自国の発展が遅れていることを知るために有益であり、他の国々に追いつくことのできるような政策策定に取り組みたいという結論となりました。

グループ2からは評価結果に基づく意見が話され、小さな地域ごとに教育プランを策定し、それぞれ予算の中で効果的に教育政策を実施することの必要性がわかったということが話されました。分散化の進んでいるブルキナファソにおいては地域ごとの教育政策の策定・実施が必要であり、ボトムアップ型の教育政策による教育の改善が求められているようです。評価結果によると24の地域がある中で6つの地域でしか政策実施を行っていなかったらしく、このような現実的な課題を受け止めた政策の策定を行う重要性が話されました。

吉田先生からは、プロジェクトの効率性や、プロジェクト実施に関する話がありました。インプットに対して高いアウトプットを生むことのできるプロジェクトが効率的であり、政策の評価にあたっては、どれだけの効果が見込めるか、どれだけの費用がかかりそうか、という点に注意すべきだということを述べられました。

**Group Work**

1. By reviewing an example of research results / field-based knowledge, discuss how it can be used in the policy processes.
  - a. Extract useful knowledge (research results/ project design, lessons etc.)
  - b. Policy implications, systemic change needs
2. Discuss what kind of researches / field-based knowledge would be more useful.
3. Presentation and discussion

20